

2021年11月21日(日)

日本キリスト教団 **久宝教会**

第64巻第34号(通算3262号)

教会設立 1959年6月14日

〒581-0072

大阪府八尾市久宝寺6丁目7-10

TEL 072-992-2131 FAX 072-992-2135

郵便振替: 00980-5-212130 「日本基督教団久宝教会」

【集会案内】こどもの礼拝: 毎日曜 10:15-10:30 何かお悩みがありましたらご遠慮なくご相談ください  
主日礼拝: 毎日曜 10:30-11:30 小さい子どもたちも、いつでも歓迎いたします。

しゅうほう

# 週報

教会標語

かみさま ひと とも  
神様がすべての人と共におられる  
あかし きょうかい  
ことを証ししていく教会



ホームページ「久宝教会」  
(ウェブサイト)

http://www.koinonia.or.jp/kyuhokyokai  
【連絡先(牛田)】090-9161-4027

kyuho-church@koinonia.or.jp

この希望が失望に終わることはありません。私たちに与えられた聖霊によって、  
神の愛が私たちの心に注がれているからです。(ローマの信徒への手紙5:5)

## こうたんぜん だい しゅうじつれいはい 降誕前 第7主日礼拝

れいはい ちゅうけいはいしん  
《礼拝はインターネットで中継配信いたします。ホームページにてどなたでも  
しちょう ばしよ とも れいはい  
ご視聴いただけますので、それぞれの場所で共に礼拝をしていただけます》

ぜん そう もくとう ちよさくけんしやうめつ  
前 奏 (黙 禱) AVE VERUM CORPUS (©著作権消滅)

まね ことば しへん へん せつ  
招きの詞 詩編 132編 3-5節

さんび か ばん せい かみ  
賛美歌 21-2番「聖なるみ神は」(©JASRAC)

せい しょ 書 サムエル記 下 23章 1-7節

いの  
お 祈り

さんび か ばん し ちよさくけんしやうめつ  
賛美歌 21-462番「はてしも知れぬ」(©著作権消滅)

メッセージ 「かみがたり」 岡嶋 千宙 伝道師

さんび か ばん しゅう う い  
賛美歌 21-542番「主が受け入れてくださるから」(©JASRAC)

しゅう いの ばん てん わたし ちち きやうだんさんびかかいていいんかい  
主の祈り 21-62番「天にいます 私たちの父」(©教団讃美歌改訂委員会)

あいじしゅくふくしき ばん ちひろ だんどうし  
愛児祝福式 (\*) 岡嶋 千宙 伝道師

きさげもの  
献 げ 物 (\*\*)

は け ん ばん かみ めぐ う せつ  
派 遣 21-91番「神の恵みゆたかに受け」(1節のみ) (©JASRAC)

しゅく ぶく ばん ちひろ だんどうし  
祝 福 岡嶋 千宙 伝道師

こう そう ばん ちよさくけんしやうめつ  
後 奏 アーメン コーラス (21-40-6番) (©著作権消滅)

ほう こく ページ さんしやう  
報 告 (4頁をご参照ください)

《お隣と間隔をあけて、席にお座りになったままで礼拝にご参加ください》

\* みんなで出席された子どもたちに神様からの祝福をお祈りします。

\*\* 「献げ物(献金)」は参加費ではございません。

うけつけ けんきんばこ さんかひ ようい かた きさ  
受付に献金箱がございます。ご用意のある方のみ、お献げください。

招きの詞 詩編 132 編 3-5 節 (聖書協会共同訳©日本聖書協会)

3 私は決してわが家の天幕に入らない。

決して寝台の床にも上らない。

4 決して目には眠りを

まぶたにはまどろみを与えない。

5 主のために場所を

ヤコブの力ある方のために

住まいを見つけるまでは。

聖書 サムエル記 下 23 章 1-7 節 (聖書協会共同訳©日本聖書協会)

1 これはダビデの最後の言葉である。

「エッサイの子ダビデの言葉。

高く上げられた者

ヤコブの神に油を注がれた者の言葉。

イスラエルの麗しい歌。

2 主の霊は私の内に語り

主の言葉は私の舌の上にある。

3 イスラエルの神は語り

イスラエルの岩は私に告げられる。

人を正しく治める者、神を畏れて治める者は

4 太陽の輝き昇る朝の光

雲一つない朝

雨の後、地に若草を芽生えさせる日の光。

5 私の家は神と共にある。

神は永遠の契約を私に賜り

すべてを整え、すべてを守られる。

私の救い、私の喜びを

すべて神は<sup>a</sup>かなえさせてくださる。

(脚注 a: 別訳「育んで」)

6 よこしまな者は皆、茨のように<sup>b</sup>はびこるが

(b: 別訳「散らされる」)

<sup>c</sup>人の手によらずに集められる。

(c: 別訳「手では集められないからだ」)

7 それを払う人は、鉄や槍の柄を用い

その場で直ちに火で焼き尽くす。」

## 《先週のメッセージより》11月14日 降誕前第6主日礼拝（障がい者週間）

「惑わされるな！」

水谷 憲 牧師

聖書：マルコによる福音書 13章 5-13節

私たちの社会は、技術は進歩し生活も便利になり続けている。しかしそれに合わせて社会が成熟してきたかという、むしろすごい勢いで悪くなってきている気がする。大人も子どもも男も女もモラルは低下し、自分の命も他人の命も軽く傷つけられ失われてゆく。自然環境保護の地道な努力も効果が感じられず、自然災害、戦争や紛争も、一向になくならない。私たちの住む国も、憲法が現実的でないから変えてしまえと声高に訴える政治家をはじめ、他国や他民族、同胞でさえ、気に入らぬと思えば平気で口汚く侮辱する者がネット上でもリアルでも増えている。私たちの将来はどうなってゆくのか。

弟子たちが美しい神殿をほめていると、イエスが神殿の崩壊を予告したので、弟子たちは「それはいつ起こるのですか。そのことが実現する時には、どんな徴があるのですか」と尋ねる。誰にとっても未来のことは、今も昔も大きな関心事。できることなら、特に自分の未来の事は先に知りたくなる。しかし弟子の質問に対してイエスはただ「人に惑わされないように気をつけなさい」「自分のことに気をつけていなさい」と言うのみ。それは、決して人の言うことに惑わされず、振り回されず、不安定な状況だからこそ、自分をしっかり持った生き方をしなさい、という弱い私たちへのメッセージか。この教えは弟子たちですら自分のものにできなかったが、思えばこれを京王線のジョーカーともちゃんと分かち合うことができたら、どうだったろうか…とも考える。

戦争の噂、地震や飢饉、世の混乱に政治の乱れ…「もはや世の終わりだ」とあきらめてしまいそうになる。しかしイエスは、それでも「まだ世の終わりではない」、「これらは産みの苦しみの始まり」なのだと言う。絶望的な出来事が次々と続く中でも、いやこれは乗り越えることができる、この先に神は必ず何か良いものを用意して下さっている、神は乗り越えられない試練を私たちにお与えにはならない、終わりではなく今こそ「始まり」なのだ、と前に進もうとすることこそが、キリストが私たちに示される世界の見方なのだ。

そして試練を乗り越えようとする中で私たちが権力者の前に立たされようとも、多くの人から一方的な誤解を受けようとも、私たちのなすべきことは私たちが神様から受けた御言葉を伝えること。この世を恐れるあまりにキリストの名を恥じて隠すのではなく、むしろ高く掲げて歩む者とされたい。耐え忍ぶとは、神の救いと愛を信じて、希望をもって生きていく前向きな姿。キリストも決してあきらめることなく、希望を持って最後まで耐え忍んだ。その先にこそ、復活の栄光があったのだ。私たちも、将来への不安をかき消すくらいの圧倒的な希望を心に、キリストの名を高く掲げて一緒に歩んでいこう。

毎週の「メッセージより」は、ウェブサイト等にも順次掲載されています。

ホームページ



Facebook



LINE 公式アカウント



